

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第6号 1989, 4, 19

発行
北海道ポーランド文化協会
〒060 札幌市中央区北2西2
道特会館 NDA画廊内
電話 221-8672

随筆

ポーランドと私

本間 富雄

どういふわけか、ドラマで落城の場面がでてくると、妙に血が騒ぐ。会津の白虎隊や、城山の西郷隆盛や、「風と共に去りぬ」から「忠臣蔵」

まで、筋書きがわかっていても、見飽きない。そこに、滅びの美学のようなものがあるのかもしれない。

しかし、どちらかと言えば、潔く散る者より、無念の思いで城を落ちのびる者の方に、より興味がある。苦節数十年再起する者や、何世代も世を偽り、身を隠し続ける者の方が、屈折していて興行きがあり、人間くさい。

好きな物語はと聞かれれば、やはり、三国史か、平家物語である。

私事で恐縮だが、私の父の家系は、曾祖父の代まで平家の姓を名乗っていた。江戸時代、どう取り入ったか旗本になり、何代か奉行職を勤め、幕末には徳川慶喜らと駿府に落ち、彰義隊の落武者をかくまったりした。私自身も難民体験があり、一九四五

年、ソ連の戦車に追われて脱出した家のカギは、さびついたまま、今でも未練がましくタンスの中にある。

ポーランド映画、アンジェイ・ワイグ監督の「地下水道」「灰とダイヤモンド」「大理石の男」「鉄の男」など一連のドキュメンタリーは、制約された状況の中で使われる言語の意味の二重性が、なぞ解きのようにおもしろい。彼の作品は、裏切りへの苦渋に満ちているが、歳月がそれをいやす「許し」のようなものがある。その映像やせりふは、陰影に富み、エキセントリックで、暗号の解説のように、何度見ても、そのつど新しい発見がある。ワイグは私と同世代である。彼の父が、ポーランド

の栄光のシンボルだった騎兵隊将校であり、ソ連軍の捕虜となり、カチンの森で殺されたことを最近知った。最近、社会主義国の映画がさえてきた。中国の謝晋監督の「芙蓉鎮」も、時代にこびて生きる人間の迷妄

と矛盾を鋭くえぐっていた。

かつて社会主義は、若者たちの希望の星だった。その国で労働者がストライキ権を求めて立ち上がったというニュースは、意外性より新鮮な驚きがあった。自主労組連帯のワレサ委員長が、ストに突入した日、仲間たちに酒を飲まないよう提案し、それが受け入れられたという報道は、さらにホットだった。弾圧や迫害よりも、酒や供応で骨抜きにされる方を気にしたというのが、いかにもポーランドらしい。

千年の興亡の歴史と、騎士道精神と、美女と酒で有名なこの国は、社会主義でありながら今でも、女性にハンドキスする優雅な習慣を残している。労働組合の闘士が、敬けんなカトリック教徒であり、激情的な行動と、おっとりした物腰が、アンピバラントに共存するこの国の民族性は、社会心理的にも、興味はつきない。

札幌で、「ポーランド問題を考える会」を作ったのは、連帯運動が規制され、しだいに不自由になってきた八二年の初めである。東京の工藤幸雄氏から札幌の沢田誠一氏に電話があり、私が沢田氏から相談を受け、それぞれの知人に呼びかけてみようということになった。第一回の会合

は四十人ぐらい集まった。当時衆議院にいた横路氏も参加してくれた。とりあえず事務局の窓口を、秘書の斉藤那昭氏の所に置き、毎月一回の割合で、研究会、講演会、映画会等の行事をすることにした。横路氏夫人由美子さんもよく顔を出してくれた。現在の博文協の人たちとのつき合いも、そのころからである。

ワレサ氏が連帯を代表してノーベル平和賞をもらったとき、札幌でも有志がささやかな集会を開き、同氏に祝電を送った。しかし、電報局の説明によると、ボーランドの本人の手もとに確実に届く保証はないとのことだった。

私がボーランドの人たちと直接出会ったのは、八三年、国立舞踊團「ガイク」を日本に呼んだときである。東欧芸術家交流協会から横路氏の所へ協力依頼が来たのだが、そのときすでに知事の公職にあったので、結局自由な立場にある私が個人の責任で、北海道公演を引き受けることになった。

全員、ワルシャワ大学出という明るく元気な彼らとの毎日は、歌や踊りだけでなく、知的な刺激の面でも忘れられない思い出となった。いつもどこかで光っている監視の目を気にしながらも、連帯や、対ソ感情や、日本への熱い思いを率直に語って

れた時の、スリルや興奮は、私にとって異文化との貴重な体験であり、衝撃だった。彼らが、帰国後どうなったかはわからない。ひとりひとりのその後の

読者からの手紙

吉田 邦子

六年は、ワイダの映画の続編のシナリオにもなるようなドラマに満ちていることだろう。
(札幌学院大学教授)

協会の一周年にあたり、ころりお慶び申し上げます。私は以前からピアノを通じてシヨパンの国、ボーランドに興味を持っていたのですが、会員になって以来、より一層親しみを感じるようになりました。また、現在私はオーストリアのウィーンに住んでいるのですが、ここに来ることになったのは、ボーランド出身の人と知り合い、近く結婚することになったためなのです。北海道とボーランドに生まれた者が偶然出会い、ここオーストリアに住んでいる訳です。幼い頃から頭の中で思い描いていたボーランドですが、偶然にもこの国が身近なものとなり、これからは私も第二の故郷として、その伝統を受け継ぎ、学び、生きてゆくことになりました。まだ訪れたことは

ありませんが、話を聞かたびに、とても美しい国であることを、また人々のメンタリティーにも共通のものがあるように感じます。北海道とボーランドを結ぶ貴重な文化協会も誕生し、交流に力を尽くされていることでもあり、これから私も北海道とボーランドの相互理解、文化交流などに、僅かながら力になるべく努力していくつもりです。

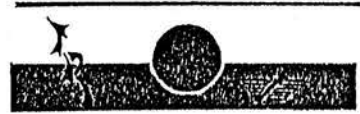
こちらウィーンもかなり寒く、雪が降っています。札幌でも雪がちらついていて頃でしょうか。これからますます寒さが厳しくなりますので、どうぞ健康に気をつけてお過ごし下さい。

ではまたお便りします。
(一九八八年十一月二十八日、ウィーンにて)

北海道ボーランド文化協会
役員名簿

会長	今村 成和
副会長	遠藤 道子
運営委員	伊東 孝之 大竹 貞
	小笠原正明 (会計担当)
	小林 暁子 霜田千代麿 灰谷 慶三 長谷川洋行 藤原 勳夫 本間 富雄 三澤 正博 和田 完 吉田 宏 方波見雅夫 相馬 純吉
監査委員	
事務局長	

原稿募集 ボーランドに関する随筆、紀行文、評論などを事務局までお寄せください。また、ボーランドおよび博文協についての断片的な感想、コメント、ニュース等を葉書一枚にまとめてお送りください。



DOM KULTURY LITNIA-LANOWA 14

ポーランドー日本協会だより

日本の

みなさまへ

ポーランドー日本協会は一九八二年九月にウツジで登録されました。ウツジには日本の文化や日本に起源をもつスポーツに興味をもつ人たちがいて、この協会を設立することを提案したからです。一九八三年二月にもたれた組織化のための会議で、役員が選ばれました。そしてウツジ工科大学学長のジェルシー・クローイ教授がポーランドー日本協会ウツジ支部の最初の支部長に選ばれました。約二百五十人の異なるサークルの人々がこの協会に参加しました。わたしたちの目的は、日本の文化、歴史、文学、演劇、スポーツ、経済、政治および科学についての情報を提供す

ることです。わたしたちは考古学、民族学博物館に入室を得て、週に一度集まって協会に関する問題について議論します。通常月一回の講演または公演を行うことにしています。たとえば一九八七年にはクローイ教授の中国旅行についてのお話、盆栽、日本の現代映画、日本音楽、日本の日常生活に関する本の著者についての集いが開かれました。

年に一度、わたしたちはいわゆる「日本文化週間」(注一)を企画実行しますが、これはウツジのおける大きな行事の一つです。今年は茶の湯の師匠が開会式に招かれました。翌日は盆栽と生け花の発表会が行わ

れました。そのあと、日本音楽、文楽、演劇、コンピュータ、スポーツについての行事、ウツジ在住の日本人との話合いなどが行われました。夜には日本映画が上映されました。また現代日本のグラフィック、着物、折り紙などの展示が行われました。

一年を通じて、日本語、折り紙、および習字の講習会が行われています。参加者はわたしたちの六百冊におよぶ蔵書の中から本や辞書を借りることが出来ます。それらの本の多くは日本の基金から贈られたものです。

わたしたちはまた日本の大使館から非常な援助を受けています。ほとんどすべての行事の資金は、地方自治体から得ています。わたしたちの協会の会員はふつうは協会の仕事で報酬を得ることはありません。

わたしたちは講師として吉田正勝氏を採用していますが、彼の献身的な仕事ぶりは非常に感謝されています。

わたしたちの協会の人たちの多くは、日本人々と親密になりたいと強く希望しています。そろそろポーランドと日本人たちの直接の文通を開始したほうが良いと思います。できたら、文通したい人の名前、興味の種類、年齢、文通のための言語などのリストを送りたいものです(注二)。

注二)

わたしたちはポーランドー日本協会の人たちが北海道札幌ー日本が一番美しい島ーの人々に対して抱いている非常に暖かい気持ちをお伝えしたいと思います。

(原文は英語、小笠原正明訳)

(注一) 次号にそのプログラムを掲載する予定です。

(注二) 「ポーレ」四号にポーランドから送られてきたリストが掲載されています。

行事案内

◆パデレフスキー・シマノフスキ演奏会

日時 七月二十一日(金)

場所 札幌サンブラザ・ホール

◆ギエルリジョーイト(シヨバン音楽院院長)演奏会

日時 九月十七日(日)

場所 札幌教育文化会館

曲目 ポーランドの舞曲、マズルカ、ポロネーズ

◆右に同じ

日時 九月十八日(月)

場所 帯広市

曲目 右に同じ

◆マゾフシエ舞踏団(民音主催)

日時 十一月十七日(金)

場所 札幌厚生年金会館ホール

内容 民族舞踊、歌

博文協主催の行事

楽しく学ぼう

ポーランド語講習会

●かねてから要望のあった「ポーランド語講習会」を、いよいよ五月九日から開始することにしました。
●ポーランド語と生活を結びつけた、楽しくて分かりやすいポーランド語講座をめぐり、左記のように行いますので、ぜひご参加下さい。

【期間】五月九日(火)～七月十一日(火) (十週間)

【時間】午後六時から午後八時までの二時間

【会場】クリスチャンセンター

(住所)札幌市北区北七条西六丁目

(電話)七三六一三三八

【講師】ガジミェシュロコグト氏(ポーランド人)

【内容】初級会話と初級文法

【授業料】十週間で一万円

【申込先】北海道ポーランド文化協会事務局

(住所)札幌市中央区北二条西二丁目

(電話)二二一一八六七二

※ハガキか電話で、五月六日までに申し込みください。

詳しくは事務局か藤原(電話八九四一〇五七〇)までお問い合わせください。

博文協例会(第五回)

ポーランド映画の世界

アンジエイ

地下水道

ワイダの

●新しい企画として、ポーランド映画を取り上げることになりました。その第一回として、アンジエイ・ワイダ監督の名作「地下水道」の十六ミリ映画の上映会を行います。

●上映に先立ち、本会会員の伊東孝之氏による時代背景についての解説が行われます。

●会員以外の方も入場可能ですので、皆様おさそい合わせの上、ふるってご参加ください。

【日時】五月二十七日(土)午後一時三十分より

【場所】札幌市青少年センター・ホール

(住所)札幌市中央区北二条西七丁目

(電話)二六一〇一一八

【解説】伊東孝之

(北大スラブ研究センター教授)

【入場】無料

【共催】北海道ポーランド文化協会

イメージ・ガレリオ

※詳しくは博文協事務局または小笠原(電話七一六一二二一一内線六七四八)までお問い合わせください。

POLE 第 6 号(1989.4.19) 目次

本間富雄「ポーランドと私」…………… 1
「読者からの手紙」吉田邦子(当時ウィーン在住)、北海道ポーランド文化協会役員名簿…………… 2
ポーランド・日本協会だより「日本のみなさまへ」、行事案内:パデレフスキ・シマノフスキ作品演奏会
(1989.7.21)、ギェルジョート・ピアノ演奏会(1989.9.17 札幌、9.18 帯広)、マゾフシェ舞踏団
(1989.11.17)…………… 3
第 1 期「楽しく学ぶポーランド語」講習会(1989.5.9～7.11)、〈第 5 回例会〉「ポーランド映画の世界」①ワイ
ダ監督『地下水道』上映会(解説:伊東孝之、1989.5.27)のお知らせ…………… 4